

1 適切な水分補給や処置

- 活動前・活動中・終了後に水分補給を行います
- 熱中症の疑いのある症状が見られた場合、早期に水分・塩分補給・身体の冷却を行い保護者にお知らせするとともに、病院への搬送等適切な処置を行います（病院への搬送が必要で保護者の方がすぐに迎えに来ることが難しい場合は、タクシーや救急車で搬送します）

2 適切な室温管理と換気について

- エアコン設備のある教室では、室温・湿度を適度に調節し、暑さ指数（WBGT）を抑えます
- エアコンを使用する際は、換気扇を「強」にして十分に換気を行います
- エアコン設備のない教室では複数台の扇風機で送風し、体感温度を下げます。或いはエアコン設備のある教室に移動して、授業を行います
- 暑さ指数（WBGT）が31を超えた場合、体育授業（室内外とも）と外遊びを中止します

3 マスク着用について

- 屋外や体育館での体育は、気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日には、十分な身体的距離を確保してマスクを外して行います（会話を控え、熱中症予防を優先します）
- 気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高くない日に、呼吸が激しくならない程度の軽度な運動を行う際、児童がマスクを着用希望の場合には、着用して運動させ、様子をよく見ます
- 児童本人が暑さで息苦しいと感じたには、暑さ指数（WBGT）に関わらずマスクを外したり片耳をかけ呼吸させたりするなどし、自身の判断で適切に対応できるように指導します
- 自らの判断で適切な水分補給及びマスクの脱着が難しい場合は、担任及び授業者が細やかに様子を見て、声をかけます